



ええやん！東近江

(R7.10.31発行)

令和7年度第1回 第2層協議体交流会かわら版

令和6年12月に14地区すべてに第2層協議体が立ち上がり、それぞれの地域性に合わせた協議・取組が展開されています。

各地区から「他の地区の取組が知りたい」「意見交換がしたい」との声から、令和7年7月4日に各地区の協議体メンバーが一堂に会した、交流会を実施しました。2地区の事例発表を踏まえながら、グループでの懇談を行いました。



＜＜事例発表＞＞

永源寺地区『永源寺地区ボランティアセンター“こだま”の取組』

発表者：住めば都プラン推進会議 仲谷さん、高橋さん



誰もがやってみたいこと、ちょっとした困りごとが話せる人や場があり、自分の得意や好きを活かして、地域の人や活動に関われることを目指し、永源寺地区では、R6.11から地区ボランティアセンター“こだま”をスタートしました。

始めのうちは、固定した場所で開始するのではなく、今ある集いの場に出向きコラボしました。活動する中で、より地区内のつながりが広がったのではないかと実感しました。

御園地区『“見守り合い”をテーマに進めてきた取組』

発表者：御園地区住民福祉推進会議 徳本さん、角間さん

地区住民福祉活動計画を推進する中で“見守り合い”をテーマに命のバトンの啓発や、みまもりカードの作成、そして、見守り合いのイメージキャラクター“ぷるまん”が誕生するなど、様々なカタチで啓発・推進活動を行ってきました。

また、地域の集いの場が見守り合いのきっかけになっていることを“地域のお宝”として、取材し、発信することで見守り合いの意識も広がっています。





《参加者の感想》

- 御園地区のみまもりカードは自分の地区でもやってみたい！
- “こだま”の取り組みで「地域を周る」というのが永源寺地区らしさでとても良いと感じました。
- 自分が住む地域のことを考えるのは当たり前のようで難しい。でも自分が、自分の子どもたちが住み続けられるように考えていきたいです。

- 結果よりもプロセスが大事だと学びました。
- とりあえずやり始めることの背中を押してもらえた交流会だった。元気をもらえました。
- 何度も交流をくり返すことで、地域のカキネをとびこえられる活動になることを期待したいです。
- どの地域もすばらしい取り組みをされているので、他地区の取り組み発表も聞いてみたいです！



コーディネーター：関西学院大学 准教授 柴田 学 氏

こうして市内の全地区に第2層協議体があり、このような交流会があること自体が素晴らしいことだと感じています。各地区で『チャレンジしたいこと』があれば、とりあえずやってみよう！の精神で取り組んでもらえると良いのかと思います。それぞれの地区らしさを踏まえ、自分たちが自分たちの地域をどうしたいか、話し合っていける第2層協議体を期待しています。



今回、多くの協議体メンバーから「次回も開催してほしい」とのお声をいただきました。各地区の取組を話し合い、東近江市全体の地域づくりが活性化する機会として、これからも第2層協議体交流会を実施していければと思います。

地区らしさを活かした地域づくりを進める協議体『第2層協議体』

